

飯山市総合戦略 効果検証会議 顛末（要旨）

日時 平成28年7月11日（月）10時00分～
場所 飯山市役所 全員協議会室

1 開会

（進行：企画財政課長）

笹本委員、江尻委員欠席 高校生欠席

2 市長あいさつ

（あいさつ：足立飯山市長）

昨年の地方創生総合戦略会議により平成27年10月に飯山市総合戦略が策定された。総合戦略にはそれぞれの項目、施策については31年度末の目標数値が入っている。

本総合戦略の策定後、約半年程度の実績ということになるが、本日の会議では、27年度末の状況を説明し、この戦略中の目標値や施策についてご検討いただき、効果検証をお願いしたい。

3 協議事項（進行：会長）

1) 飯山市総合戦略の効果検証について

資料1：地方創生交付金 実施事業について（平成27年度）

資料2：飯山市総合戦略 目標達成のためのロードマップ（重点項目）

資料3：飯山市総合戦略 進行管理表

2) 飯山市総合戦略の見直しについて

3) その他

4 閉会

1) 飯山市総合戦略の効果検証について

資料1：地方創生交付金 実施事業について（平成27年度）

資料2：飯山市総合戦略 目標達成のためのロードマップ（重点項目）

資料3：飯山市総合戦略 進行管理表

事務局から資料1～3を説明。

【質疑応答】

（市長）合計特殊出生率の数値について、もう少し説明をお願いします。

（事務局）合計特殊出生率については、単年度で見ると数値は増えている。全体の女性の数は減ってきているが、子どもの全体の出生数はあまり変化していない。このため計算上、合計特殊出生率の数値については増加しています。

（市長）飯山駅の乗車数（新幹線）について、もう少し説明をお願いします。

（事務局）飯山駅の乗車数（新幹線）は、一日平均504人+ α となっている。これは国外から日本へ来ているお客様が利用している、ジャパンレールパスというものを利用された方の数値がほとんど加味されていない。このため、このパス利用の方を+ α で表現している。

パス利用者の方は改札を通らずに新幹線を利用するため、カウントの方法として、全体の利用者数を案分し各駅でカウントしているとのこと。実際の数値として飯山駅は、外国人の観光客がかなり利用されているはずであるので、+ α とした。

なお、冬期間で多い時には、一日1900人の利用があったと想定されるが、このパス券利用のお客様は、カウントされていないため数がわからない。今後、利用者をカウントする方法等検討をしていきたい。

（市長）若者定住・移住定住推進についてはどうか。

（事務局）転出・転入の差を抑えていきましょう。ということであるが、平成27年度の実績とすると成婚組数95組ということで若干減ってきている。転出・転入の差が239人ということで、広がってきている転入が減り転出が増えている。

（市長）全体をとおして、委員の皆さんから意見をいただきたい。

（委員）飯山駅乗車数（新幹線）のこの乗車数のプラス α の数値については、把握しておくことが大事だと考える。
市でも調査を行い、データを取っておくことが必要だと思う。

- (委員) 具体的な対策、何をやるかといことがないと数値が良くなっていかない。
- (委員) 転入・転出の関係ですが、飯山市からどの自治体へ引っ越していくのか、逆にどこの自治体から飯山市へ来ているのか。教えていただけますか。
- (事務局) 県内の転出先は、長野市、中野市、松本市が上位1～3位である。
県外については、東京都、神奈川県、埼玉県が上位1～3位である。
県内の転入元についても、長野市・中野市からで約5割と多く、県外についても東京圏からが約4割である。
- (委員) 事務局で転出について内容等わかるか。
- (事務局) 転出の理由としては、仕事の関係、学校の関係での転出が一番多い。
特に学校の関係等で定期的に異動するかたは、相当数いる。
- (市長) 転出を防がないといけないが、仕事と住む場所がないとだめである。
この移住者を増やすために、住むところを整備していく。
住宅と仕事をセットで実施できれば良いが。
- (事務局) 平成28年度事業で、雇用促進住宅の建物について市で取得し、Iターン等の方を優先し、低価格で若者でも入居できるようにしていく計画である。
例えば、飯山の工場団地に勤務されている方などにも、入居していただきたい。建物については、市で取得後、リフォーム等していく。
仕事とセットでPRしていければよいが。
- (委員) 飯山の仕事、産業は、農業が核となってくると思うが、農業は儲からないと言われている。しかし、農業の活発な所、後継者がいるところを視察してみると、農家がもうかっているかどうかやはり大切である。
作物を作って売る所までセットでできると良いと思うが。
- (委員) 米作でいえば、食味コンクールに入賞することが目的ではなく、お米を売ることが目標である。その米に付加価値を付けられるかどうか大事である。農業を儲かる産業に育て上げることが大事である。
- (事務局) KPIは指標として記載されている。その先へ産業に育てていくことがある。
- (委員) 農業振興について具体的なことがない。
- (事務局) 例えば、どの農産物をどのくらいという部分が出ていないので、今後そういった部分を詰めていきたいが、市役所だけでは無理である。
- (市長) 移住定住については、日本中いろいろなところでやっている。やはり仕事がないとダメである。ひとつのモデルを作ってやっていきたい。
- (委員) 実現するための手段がわからないので進んでいかないと思う。

- (委 員) 農業で成功している方がいるので、その成功事例を抽出して、そのやり方を真似て、モデルとして出していくのが良いのでは。
商品というのは、束になっていけば商品力が付いていくので、成功事例、よいモデルのコピーを多くつくり、増やしていくことがよい。
- (市 長) 市では、インキュベーションセンター機能をもった施設を9、10月に開所する予定である。そこで様々な方が集まって、議論や、起業等いろいろなことができる場所であるので活用していただきたい。
- (市 長) 農産物を売る方については、市でも農林課にマーケティング係を作ってルートを検討している。売るところまで考えて事業を実施していく。
- (委 員) 例えば、里芋、坂井いもは、とても有名になっている。成功事例なのではないか。また、量が少なければ希少性もあると思う。
- (委 員) 観光の部分で、戸狩も斑尾でも飯山市内での観光、目的地があるともっと良いと感じている。
駅前ももっとにぎやかになってくると、もっとよくなると思う。
先日、函館から来た方は飯山駅をほめていた。飯山駅中心にリゾートが広がっていくと良い。
また、斑尾については、冬、1月は飽和状態である。これはペンションの空き、施設を閉めてしまっているためだが、逆に不動産は動いていて、空きペンションを購入する動きもある。
スキー客については、学生のバスツアーは減ったが、一般客は増えている。
- (委 員) 斑尾でペンションやりたい方を募集できないか。
ペンションでの創業支援が出来そうな感じをもっている。
外から飯山へ入ってきていただければ、人口にも直結する。

2) 飯山市総合戦略の見直しについて

- (市 長) 項目をもっと具体化していくことが必要だということだと思います。
産業だけでなく、子育て関係も含めて進めていく必要があると思う。
それぞれの分野でご協力をお願い致します。
飯山市総合戦略の見直しについては、効果検証を実施していく中で、本日いただいたご意見、総合戦略を進めていくなかでのご意見だと思っている。
まだ、総合戦略を策定して半年間のことでありますので、特に指標については見直しをなしで、目標として進めて行きたいと考えています。
よろしいでしょうか。

【 承 認 】

3) その他

4 閉会

以上